

中国都市部における「科学月子」の創造：家政婦月 嫂の産育実践を中心に

翁，文静

<https://doi.org/10.15017/1654625>

出版情報：Kyushu University, 2015, 博士（教育学），課程博士

バージョン：

権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏名 : 翁 文静

論文名 : 中国都市部における「科学月子」の創造
— 家政婦月嫂の産育実践を中心に —

区分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

近年、文化人類学、民俗学、福祉学、医学などの視点に立った産育研究が盛んに行われている。これらの産育研究では、妊娠・出産のみならず、各国の伝統的な産後の養生習慣についても言及されている。その背景として現代社会が出産前後の女性の心身や子育てをめぐる様々な困難や問題に直面するなかで、あらためてかつての産後養生習俗の意義や役割を見直そうとする学術的、社会的な関心の高まりがあると思われる。またこれらの伝統習俗の多くは現代社会の医療化の脈絡のなかで新たな装いを伴って受け継がれており産育をめぐる習俗や文化研究においても興味深いテーマを提供している。本研究では中国上海市における伝統の産後養生習俗である月子 (yue zi) を取り上げ中国の都市的文脈における伝統習俗の継承と新たな展開及びそれ担う家政婦月嫂たちの実践を描くことを通して、中国都市部の新しい産育文化(「科学月子 ke xue yue zi」)の形成過程とそこでの家政婦月嫂の役割を明らかにすることを目的とする。

本研究で用いるデータは、主に2013年3月から2015年までの間に中国上海市の中心城辺縁区での現地調査を通して収集した。うち2013年8月から2014年3月は月嫂養成訓練を受けた機会を利用し関連データの収集を行った。

本研究は五つの章と終章から構成される。

第1章では、月子習俗の変容及び月嫂に関する研究を検討する。まず、第1節では、中国の伝統習俗としての月子の起源、その機能、月子を纏わる様々規範・禁忌について概観した上、月嫂、月子センターを含む月子習俗の変容についてもまとめた。続いて、近年提唱され続けている「科学的な」月子とはどのようなものなのかをメディアや産育企業の分析視点から明らかにした。第2節では、中国における家政婦(業)全般の背景、その類型、及び家政婦をめぐる様々な問題を概観する。第3節では、「科学的な」月子成立の一環としての月嫂の形成要因、位置づけ、及び彼女たちの果たす役割などについて概観した。

第2章では、月嫂業の成立と発展を月子習俗の商業化の一つの表れと見做し、それに伴う月嫂の資格化を取りあげた。第1節では、Hトレーニングセンター、月嫂派遣会社J社、HK病院のスタッフへのインタビュー及び企業のホームページやパンフレットなどを中心に、上海市における月嫂業界の成立・発展のプロセスを「誕生・成立期」、「発展期」および「成熟準備期」という三つの時期に分け考察を行った。第2節では、2011年まで活躍してきたX社も取りあげ、月子の医療化の一側面を描いた。また第3節ではどのような女性が、なぜ、どのように月嫂に

なるのか、どのように雇用されるのかを筆者の参与観察のデータに基づき、明らかにした。

第3章から5章までは、先述したように、月嫂の産育実践を、(1) 産育知識及び技術の獲得 (2) その形成段階、及び (3) 産育知識・技術の遂行段階という三つの段階においてとらえ、考察を行った。これらの章を貫くキーワードは月子習俗における医療化である。

第3章では、月嫂資格を取るための必須段階であるHトレーニングセンターを月嫂たちの経験する最初の実践コミュニティと見做し、そこでの女性たちの産育知識・技術の獲得のプロセスに焦点をあてた。この章では、学校的形態をとるHトレーニングセンターおよび月嫂養成訓練（主に教科書）の内容をふまえた上で、月嫂養成訓練および特別訓練（催乳師訓練と月子料理栄養士訓練）の実際の様子を紹介しながら、これらの訓練の特徴である月子の医療化を浮かび上がらせた。

第4章では、Hトレーニングセンターでの月嫂養成訓練を終了した女性（新米月嫂と呼ぶ）がHK病院という現場における産育実践を形成していく様子を描いた。この章では、まず、HK病院という月嫂たちの経験する二つ目の実践コミュニティにおいては、新米月嫂たちがベテラン月嫂、医療関係者に囲まれ、これまで習得した産育知識・技術をさらに医療化させて行く様子を明らかにした。しかし、その過程はHK病院における産育実践は医療行為だけでなく、産婦、新生児の日常的な世話や、場合によって、伝統習俗をめぐる知識・技術も含む複雑で動的なものであった。そこで、第4章では、新米月嫂たちはこのような幅広い産育実践を本物の新生児と産婦の状況に合わせて、不断に変化、形成し続けていることを読み解いていった。

第5章では、一人前の月嫂がHK病院、月子センター及び雇用者宅という異なる勤務先でそれぞれどのような実践を遂行しているのかを明らかにするとともに、彼女たちの行う具体的な産育実践を衣食住及び医療という視点から捉えるとともに、月嫂たちの現場での実践に対して雇用者がそれをどのように受け入れているか、言い換えれば、月嫂の産育実践の受容もしくは抵抗の在り方についても考察を行った。

終章は以上の5つの章における分析のまとめを行った。月嫂の産育実践の獲得、形成及びその遂行というプロセスを振り返りながら、「科学月子」の創造過程とそのなかで彼女たちの果たしている役割を明らかにし、最後に本研究の展望と課題を述べた。